

10 景観への影響検討

「中央新幹線（東京都・名古屋市間）環境影響評価準備書」への山梨県知事意見（平成 26 年 3 月 20 日）で景観への影響検討の要請があった 14 地点のうち、10 地点（11 視点）において完成後のイメージを示すフォトモンタージュを作成し、事業説明会等において住民の皆様へお示しした。

主要な眺望景観の変化を表 10-1 及び図 10-1 に、日常的な視点場からの景観の変化を表 10-2 及び図 10-2 に示す。

表 10-1(1) 主要な眺望景観の変化

主要な眺望点	境川自転車競技場
撮影条件	撮影日：平成 26 年 11 月 天候：晴れ 使用カメラ：CANON EOS60D レンズ焦点距離：23.3mm 35mm フィルム換算焦点距離：35mm
フォトモンタージュの概要	構造形式：連続 PC ラーメン橋、桁式高架橋 等 高架橋高さ ^{注1} ：約 16m 視点場から鉄道施設までの距離 ^{注2} ：約 100m
結果	本視点場は、主要な眺望点から北西方向を望んでおり、八ヶ岳・秩父山系及び甲府盆地を眺望できる。また、手前には、中央自動車道が視認できる。 対象事業の実施により、鉄道施設(高架橋、橋梁)が視認されるようになる。 景観資源に対する眺望景観に変化は生じず、スカイラインの分断は無い。

注 1. 「高架橋高さ」とは、地盤面 (G.L) から施工基面 (F.L) までの高さをいう。

注 2. 視点場から最も近い鉄道施設までのおよその距離を記載した。

現況



完成後のイメージ



図 10-1(1) 主要な眺望景観の変化

表 10-1(2) 主要な眺望景観の変化

主要な眺望点	荒川サイクリングロード起点周辺
撮影条件	撮影日：平成 26 年 11 月 天候：晴れ 使用カメラ：CANON EOS60D レンズ焦点距離：23.3mm 35mm フィルム換算焦点距離：35mm
フォトモンタージュの概要	構造形式：PC ラーメン橋、橋梁、桁式高架橋、壁式高架橋 等 高架橋高さ ^{注1} ：約 20m 視点場から鉄道施設までの距離 ^{注2} ：約 520m
結果	本視点場は、主要な眺望点から北方向を望んでおり、八ヶ岳・秩父山系及び荒川を眺望できる。 対象事業の実施により、鉄道施設(高架橋、橋梁)が視認されるようになる。 景観資源に対する眺望景観の一部に変化が生じるものの、スカイラインの分断は無い。

注 1. 「高架橋高さ」とは、地盤面 (G.L) から施工基面 (F.L) までの高さをいう。

注 2. 視点場から最も近い鉄道施設までのおよその距離を記載した。

現況



完成後のイメージ



図 10-1(2) 主要な眺望景観の変化

表 10-1(3) 主要な眺望景観の変化

主要な眺望点	釜無川右岸堤防上（北向き）
撮影条件	撮影日：平成 26 年 11 月 天候：晴れ 使用カメラ：CANON EOS60D レンズ焦点距離：23.3mm 35mm フィルム換算焦点距離：35mm
フォトモンタージュの概要	構造形式：PC ラーメン橋、桁式高架橋 等 高架橋高さ ^{注1} ：約 12m 視点場から鉄道施設までの距離 ^{注2} ：約 350m
結果	本視点場は、主要な眺望点から北方向を望んでおり、八ヶ岳・秩父山系、市之瀬台地及び釜無川を眺望できる。 対象事業の実施により、鉄道施設(高架橋、橋梁)が視認されるようになる。 景観資源に対する眺望景観の一部に変化が生じるものの、スカイラインの分断は無い。

注 1. 「高架橋高さ」とは、地盤面 (G.L) から施工基面 (F.L) までの高さをいう。

注 2. 視点場から最も近い鉄道施設までのおよその距離を記載した。

現況



完成後のイメージ



図 10-1(3) 主要な眺望景観の変化

表 10-1(4) 主要な眺望景観の変化

主要な眺望点	天神中條天満宮
撮影条件	撮影日：平成 26 年 11 月 天候：晴れ 使用カメラ：CANON EOS60D レンズ焦点距離：23.3mm 35mm フィルム換算焦点距離：35mm
フォトモンタージュの概要	構造形式：橋梁、桁式高架橋 等 高架橋高さ ^{注1} ：約 21m 視点場から鉄道施設までの距離 ^{注2} ：約 140m
結果	本視点場は、主要な眺望点から北西方向を望んでおり、南アルプス山系が眺望できる。 対象事業の実施により、鉄道施設(高架橋、橋梁)が視認されるようになる。 景観資源に対する眺望景観の一部に変化が生じるとともに、スカイラインの一部は分断される。

注 1. 「高架橋高さ」とは、地盤面 (G.L) から施工基面 (F.L) までの高さをいう。

注 2. 視点場から最も近い鉄道施設までのおよその距離を記載した。

現況



完成後のイメージ



図 10-1(4) 主要な眺望景観の変化

表 10-1(5) 主要な眺望景観の変化

主要な眺望点	最勝寺農村公園・飛川神社
撮影条件	撮影日：平成 26 年 11 月 天候：晴れ 使用カメラ：CANON EOS60D レンズ焦点距離：23.3mm 35mm フィルム換算焦点距離：35mm
フォトモンタージュの概要	構造形式：橋梁、桁式高架橋 等 高架橋高さ ^{注1} ：約 20m 視点場から鉄道施設までの距離 ^{注2} ：約 150m
結果	本視点場は、主要な眺望点から南西方向を望んでおり、巨摩山地の一部が眺望できる。また、周辺の畑地などが視認できる。 対象事業の実施により、鉄道施設(高架橋、橋梁)が視認されるようになる。 景観資源に対する眺望景観の一部に変化が生じるものの、スカイラインの分断は無い。

注 1. 「高架橋高さ」とは、地盤面 (G.L) から施工基面 (F.L) までの高さをいう。

注 2. 視点場から最も近い鉄道施設までのおよその距離を記載した。

現況



完成後のイメージ



10-11

図 10-1(5) 主要な眺望景観の変化

表 10-2 (1) 日常的な視点場からの景観の変化

日常的な視点場	文珠稻荷塚古墳（西向き）
撮影条件	撮影日：平成 26 年 11 月 天候：晴れ 使用カメラ：CANON EOS60D レンズ焦点距離：23.3mm 35mm フィルム換算焦点距離：35mm
フォトモンタージュの概要	構造形式：桁式高架橋 等 高架橋高さ ^{注1} ：約 34m 視点場から鉄道施設までの距離 ^{注2} ：約 200m
結果	本視点場は、日常的な視点場から西方向を望んでおり、甲府市上曾根町の集落内の住宅や畑地等が視認できる。 対象事業の実施により、鉄道施設(高架橋)が視認されるようになる。

注 1. 「高架橋高さ」とは、地盤面 (G.L) から施工基面 (F.L) までの高さをいう。

注 2. 視点場から最も近い鉄道施設までのおよその距離を記載した。

現況



完成後のイメージ



図 10-2(1) 日常的な視点場からの景観の変化

表 10-2(2) 日常的な視点場からの景観の変化

日常的な視点場	文珠稻荷塚古墳（南東向き）
撮影条件	撮影日：平成 26 年 11 月 天候：晴れ 使用カメラ：CANON EOS60D レンズ焦点距離：23.3mm 35mm フィルム換算焦点距離：35mm
フォトモンタージュの概要	構造形式：橋梁、桁式高架橋 等 高架橋高さ ^{注1} ：約 34m 視点場から鉄道施設までの距離 ^{注2} ：約 130m
結果	本視点場は、日常的な視点場から南東方向を望んでおり、甲府市上曾根町の集落内の住宅、畑地及びその奥に坊ヶ峰、御坂山地を視認できる。 対象事業の実施により、鉄道施設(高架橋、橋梁)が視認されるようになる。

注 1. 「高架橋高さ」とは、地盤面 (G.L) から施工基面 (F.L) までの高さをいう。

注 2. 視点場から最も近い鉄道施設までのおよその距離を記載した。

現況



完成後のイメージ



図 10-2(2) 日常的な視点場からの景観の変化

表 10-2(3) 日常的な視点場からの景観の変化

日常的な視点場	南アルプス市藤田
撮影条件	撮影日：平成 26 年 11 月 天候：晴れ 使用カメラ：CANON EOS60D レンズ焦点距離：23.3mm 35mm フィルム換算焦点距離：35mm
フォトモンタージュの概要	構造形式：桁式高架橋 等 高架橋高さ ^{注1} ：約 11m 視点場から鉄道施設までの距離 ^{注2} ：約 110m
結果	本視点場は、日常的な視点場から北方向を望んでおり、南アルプス市藤田地区の田園地帯を視認できる。 対象事業の実施により、鉄道施設(高架橋)が視認されるようになる。

注 1. 「高架橋高さ」とは、地盤面 (G.L) から施工基面 (F.L) までの高さをいう。

注 2. 視点場から最も近い鉄道施設までのおよその距離を記載した。

現況



完成後のイメージ



図 10-2(3) 日常的な視点場からの景観の変化

表 10-2(4) 日常的な視点場からの景観の変化

日常的な視点場	若草なかよし児童館
撮影条件	撮影日：平成 26 年 11 月 天候：晴れ 使用カメラ：CANON EOS60D レンズ焦点距離：23.3mm 35mm フィルム換算焦点距離：35mm
フォトモンタージュの概要	構造形式：桁式高架橋 等 高架橋高さ ^{注1} ：約 12m 視点場から鉄道施設までの距離 ^{注2} ：約 140m
結果	本視点場は、日常的な視点場から北西方向を望んでおり、道路上から南アルプス市藤田地区の町並みを視認できる。 対象事業の実施により、鉄道施設(高架橋)が視認されるようになる。

注 1. 「高架橋高さ」とは、地盤面 (G.L) から施工基面 (F.L) までの高さをいう。

注 2. 視点場から最も近い鉄道施設までのおよその距離を記載した。

現況



完成後のイメージ



10-19

図 10-2(4) 日常的な視点場からの景観の変化

表 10-2(5) 日常的な視点場からの景観の変化

日常的な視点場	増穂小南側歩道橋付近
撮影条件	撮影日：平成 26 年 11 月 天候：晴れ 使用カメラ：CANON EOS60D レンズ焦点距離：23.3mm 35mm フィルム換算焦点距離：35mm
フォトモンタージュの概要	構造形式：橋梁、桁式高架橋 等 高架橋高さ ^{注1} ：約 20m 視点場から鉄道施設までの距離 ^{注2} ：約 450m
結果	本視点場は、日常的な視点場から南西方向を望んでおり、道路上から周辺の住宅や畑地が視認できる。 対象事業の実施により、鉄道施設(高架橋、橋梁)が視認されるようになる。

注 1. 「高架橋高さ」とは、地盤面 (G.L) から施工基面 (F.L) までの高さをいう。

注 2. 視点場から最も近い鉄道施設までのおよその距離を記載した。

現況



完成後のイメージ



10-21

図 10-2(5) 日常的な視点場からの景観の変化

表 10-2(6) 日常的な視点場からの景観の変化

日常的な視点場	富士川町高下（仙洞田）
撮影条件	撮影日：平成 26 年 11 月 天候：晴れ 使用カメラ：CANON EOS60D レンズ焦点距離：23.3mm 35mm フィルム換算焦点距離：35mm
フォトモンタージュの概要	構造形式：桁式高架橋 等 高架橋高さ ^{注1} ：約 10m（本線）、約 10m（回送線） 視点場から鉄道施設までの距離 ^{注2} ：約 100m
結果	本視点場は、日常的な視点場から南東方向を望んでおり、富士川町高下地区の田園地帯を視認できる。 対象事業の実施により、鉄道施設（高架橋及び保守基地の回送線の高架橋）が視認されるようになる。

注 1. 「高架橋高さ」とは、地盤面（G.L）から施工基面（F.L）までの高さをいう。

注 2. 視点場から最も近い鉄道施設までのおよその距離を記載した。

現況



完成後のイメージ



図 10-2(6) 日常的な視点場からの景観の変化

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の100万分1 日本、50万分1 地方図、数値地図200000（地図画像）、数値地図50000（地図画像）及び数値地図25000（地図画像）を複製したものである。（承認番号 平30情複、第196号）
なお、承認を得て作成した複製品を第三者がさらに複製する場合には、国土地理院長の承認を得る必要があります。

本書は、再生紙を使用している。